

2022 年度版

社会福祉学科 総合型選抜入試課題

次の課題A・B・Cから一つを選び、800～1000字であなたの考えを述べなさい。

○手書きの場合

「課題レポート（エントリー時提出）」に記入し、記入欄が不足する場合は、別紙（記入欄をコピーしたもの）を利用してもよい。

○パソコンで作成する場合

WINDOWSで扱える文書ファイル（ワード、テキスト等）で作成し、A4縦用紙に横書きする。ただし、行・文字数、間隔等の指定は特にありません。

※ 氏名、課題A、B、Cを明記してください。

以下の課題文(記事)を読んで、問いに答えてください。

【課題 A】 「増える生活保護 コロナ禍に耐える制度に」

感染症のパンデミック（世界的大流行）という非常時に、弱者の暮らしを「公的」にどう支えるのか。長期化する新型コロナ禍が日本社会に突き付けている深刻な課題の一つである。

生活保護の申請数が増加を続け、この2月は1万7千人余と前年同月から約8%増えた。前年同月比増は6カ月連続となる。コロナ禍による困窮者の増加を反映しているとみられる。

（中略）

現在の感染拡大の第4波は、昨年から暫定的に張られてきた安全網を破りつつあると考えるべきだろう。将来的にはさらに深刻な経済危機が到来しないとも限らない。そうした緊急時にいかに対応するのか。財源を含めた長期的な制度設計の検討を始めねばならない局面だ。

【2021年5月26日 西日本新聞】

【問】

この記事を読んで、コロナ禍における生活保護の在り方について、あなたの意見を述べてください。

以下の課題文(記事)を読んで問に答えてください。

**【課題 B】 「障害ある卒業生 発言させず。
式後の学級活動 思い出や感謝の言葉」**

長崎市立中で今月 16 日、卒業式後に体育館で開いた学級活動で、卒業生 25 人のうち、特別支援学級の男子生徒一人だけ、中学校生活の思い出などを発言する機会が与えられなかったことが 27 日までに分かった。保護者はその場から退席。学校側は謝罪した。男子生徒には発達障害があり、校長は長崎新聞の取材に「人前で話すことが苦手だったことを考慮しての対応だったが、間違った判断だった」と釈明した。

当日、男子生徒を見守っていた母親は、卒業生一人一人の言葉を聞きながら、わが子の順番を待っていたと明かした。「最初は忘れられているのかと思った。(退席した際) 悲しいとかむなししいとか、いろんな感情が込み上げてきた。息子は人前で話すことなどではできない。特別な配慮ではなく、同じ卒業生として当たり前のことをしてほしかった」と憤る。

学校によると、同校は 3 年 1 組が通常学級、2 組が特別支援学級で、2 組には男子生徒 1 人が在籍。卒業式後の学級活動は例年、各教室で開いているが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、体育館で 2 クラス合同で開いた。教職員や保護者も同席していた。

この中で、1 組の卒業生はくじ引きで呼び出され、担任から卒業証書を受け取り、3 年間の思い出のほか、教員や両親への感謝の言葉などをそれぞれ述べた。学校側は男子生徒が話す機会を想定せず、くじの人数に入れていなかった。この後、男子生徒だけ教室で卒業証書を受け取った。

男子生徒は帰宅後、母親に「何を言おうか考えていた」と漏らしたという。

【2021 年 3 月 28 日 長崎新聞】

【問】

この記事を読み、障害のある生徒への「特別な配慮」と「公平な扱い」をめぐってどのような対応が求められているかについて、あなたの考えを述べてください。

以下の課題文(記事)を読んで、問いに答えてください。

**【課題 C】 <ネット中傷抑止> 総務相、投稿者特定へ
「発信者情報開示制度」改正検討
～テラハ出演の女子プロレスラー・木村花さん死去受け～**

高市早苗総務相は、会員制交流サイト（SNS）で誹謗（ひぼう）中傷を受けていた女子プロレスラーの木村花さん（22）が5月23日に死去したことに関し、インターネット上に書き込みをした投稿者の特定を容易にし、悪意のある投稿を抑止するための制度改正を検討する意向を示した。年内に改正案を取りまとめる方針で「スピード感を持って対応したい」と強調した。

現在は訴訟に持ち込まないと情報が開示されないことも多いが、迅速な開示に向けた方策を探り、氏名などに加えて電話番号を開示対象にすることも検討する。自民党も26日、対策を検討するプロジェクトチーム（PT）の初会合を開催。ただ「表現の自由」や「通信の秘密」を損なうとの懸念もあり、両立が課題となる。

高市氏は会見で「ネット上の誹謗中傷を抑止し、被害救済を図るには発信者の情報開示の手続きが適切に運用されることが必要だ」と指摘した。ネット上の誹謗中傷を巡っては、もともと被害の訴えが急増していた。総務省が設置するネット上の名誉毀損（きそん）やプライバシー侵害などの窓口には、2019年度に約5千件の相談が寄せられた。

【2020年5月27日（共同通信社）一部抜粋】

【問】

この記事を読み、ネット上で日常的に起こる「人権」に関わる誹謗中傷へのあなたの考えや思いやりを育てる共生社会のあり方について述べてください。